

地区予選敗退のスポーツチームを 強化するための提言

— 組織風土の観点から —

金沢星稜大学 人間科学部 スポーツ学科

○鳥山 稔 佐藤 真輔 片山 翼
小林 翔太 永田 美帆 山下 圭介

目次

1. 緒言



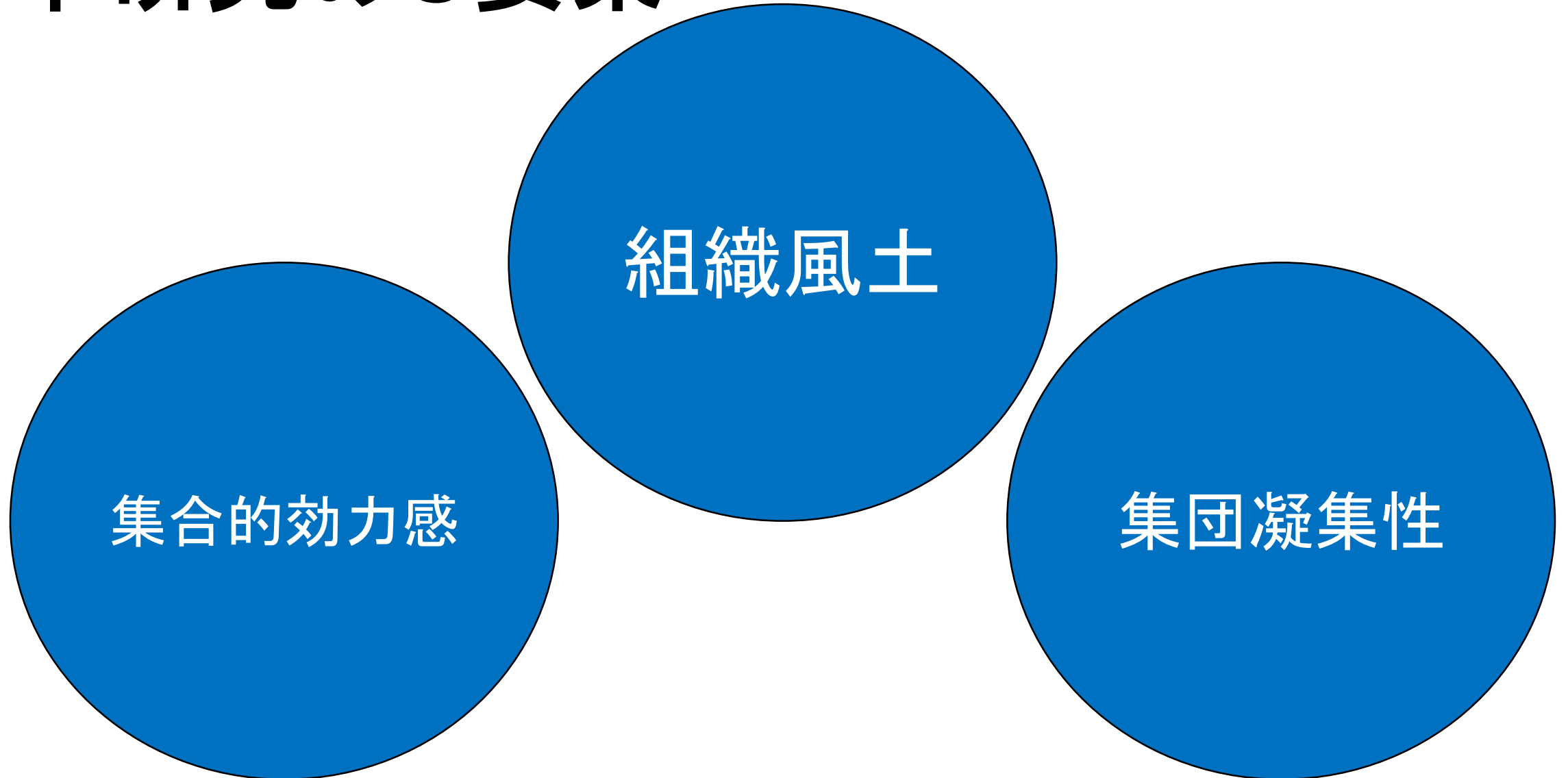
2. 研究



3. 政策提言

1. 緒言

本研究の3要素



集団凝集性とは

メンバーを自発的に集団内に留まらせる力の総体
(亀田, 1999, p. 185)



拘束力UP



成績UP

集合的効力感とは

あるレベルに到達するため必要な一連の行動を体系化し、
実行する統合的な能力に関する集団で共有された信念
(Bandura, 1997, p. 477)



強くなる雰囲気



強力な信念

組織風土とは

チームの特性であるとされる

チームメンバー個々の価値観を集め平均化したもの



チームの価値観

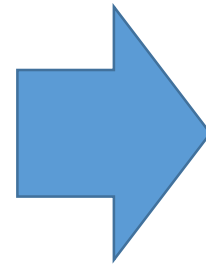
- 檉塚(2008)

「集団凝集性は安定と増加の傾向があると、良い成績へつながる可能性がある」と述べられている。

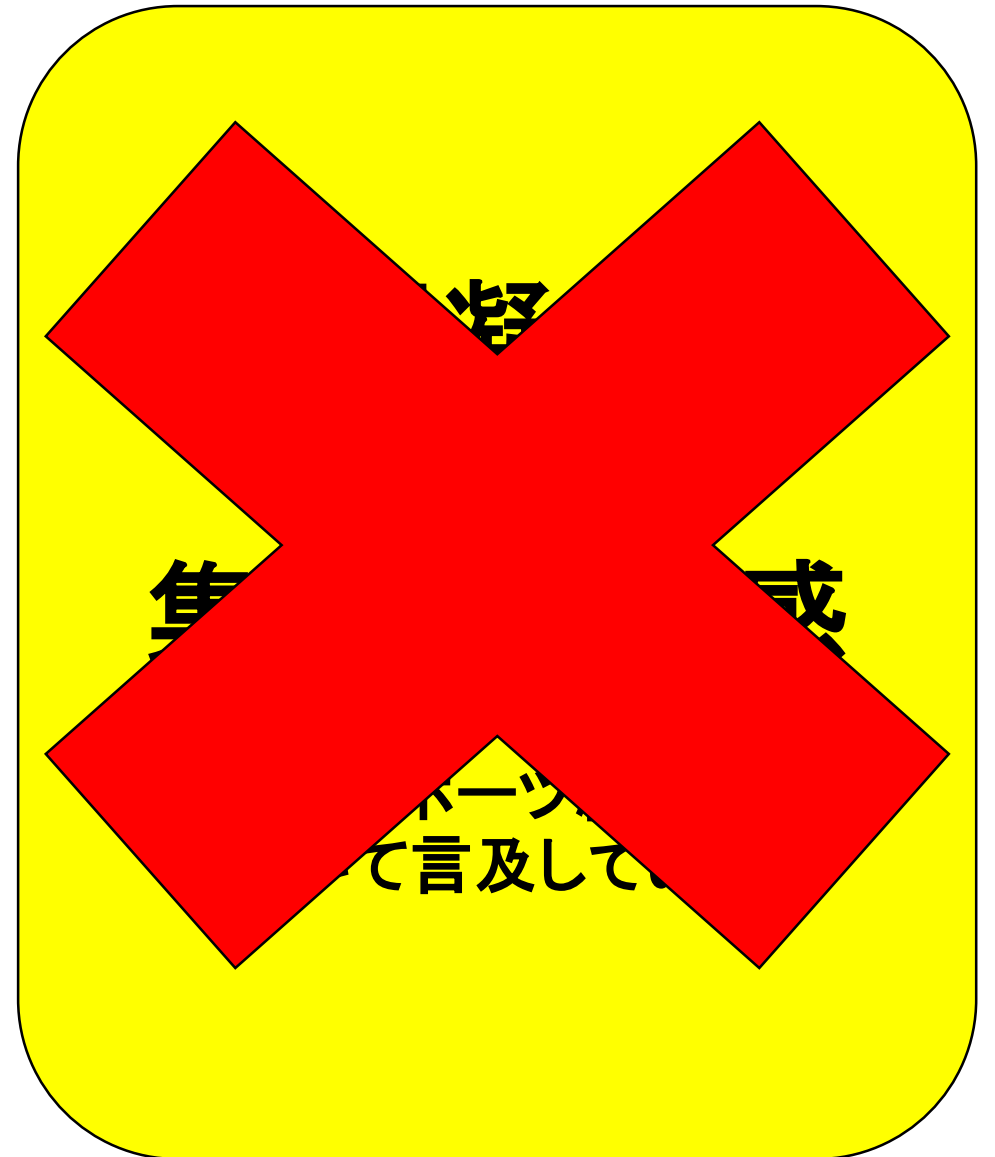
- Gully(2002)

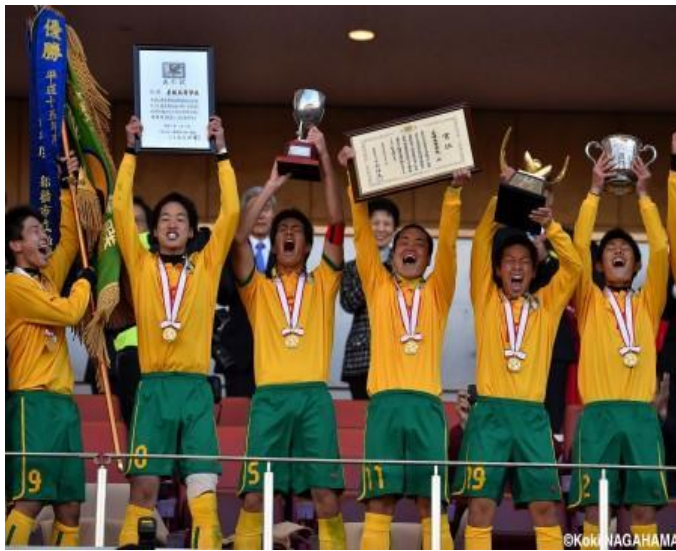
「集合的効力感と集団パフォーマンスには正の関連性が認められている」と報告されている。

集団凝集性
「スポーツ集団」



集合的効力感
「スポーツパフォーマンス」





全国大会出場
チーム・入賞
チーム

集団凝集性
集合的効力感の差

地区予選敗退
スポーツチーム

組織風土

2. 研究

2-1. 研究目的

全国大会出場

集団凝集性

集合的効力感

組織風土

地区予選敗退
スポーツチーム



スポーツチームの成績向上

場

できていない

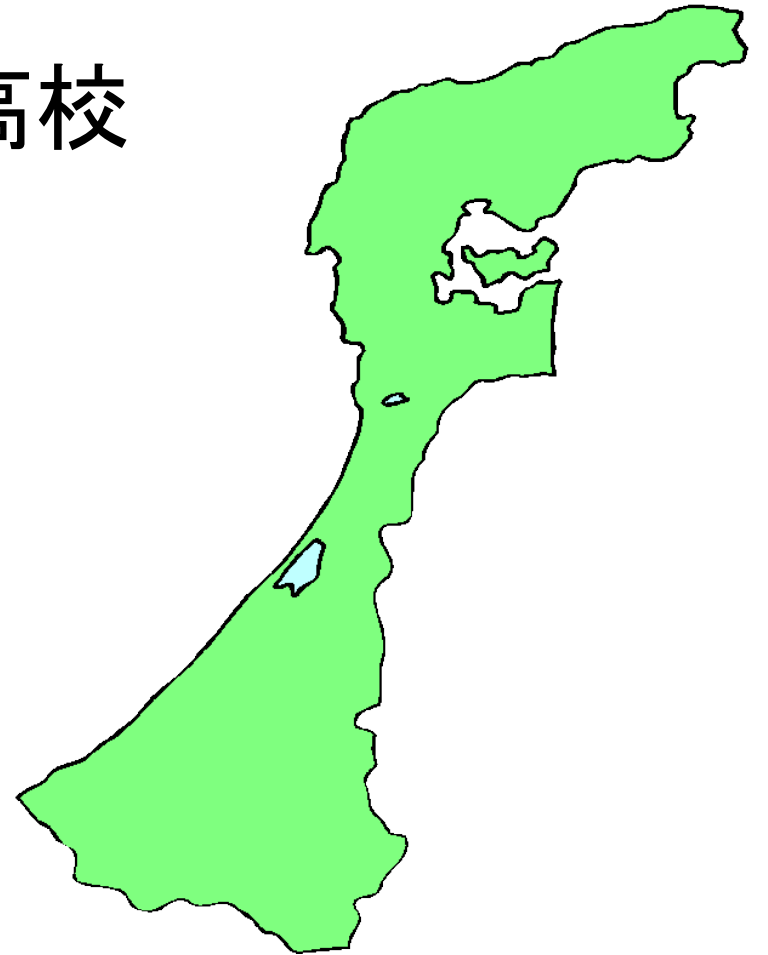
ス

パフォーマンス向上

2-2. 研究方法

研究対象者

- ・全国大会 **17年連続出場** 星稜高校
サッカー部員代表レギュラー25名
(出場回数 : 26回)
- ・石川県大会 **ベスト4** A高校
サッカー部員代表レギュラー22名
(出場回数 : 0回 ※最高順位 県予選準優勝)



星稜高校サッカー部について

- 創部日 1967年(昭和42年)
- 部員数 **155** 名(平成28年5月現在)
- サッカー日本代表 **本田圭佑** 選手の母校

選手権 全で 成績

優勝

1回

準優勝

1回

ベスト4

2回



星稜高校からプロへの排出



豊田陽平



本田圭佑



鈴木大輔

調査の手続き

質問紙の配布
研究の説明

研究協力の
同意

回答

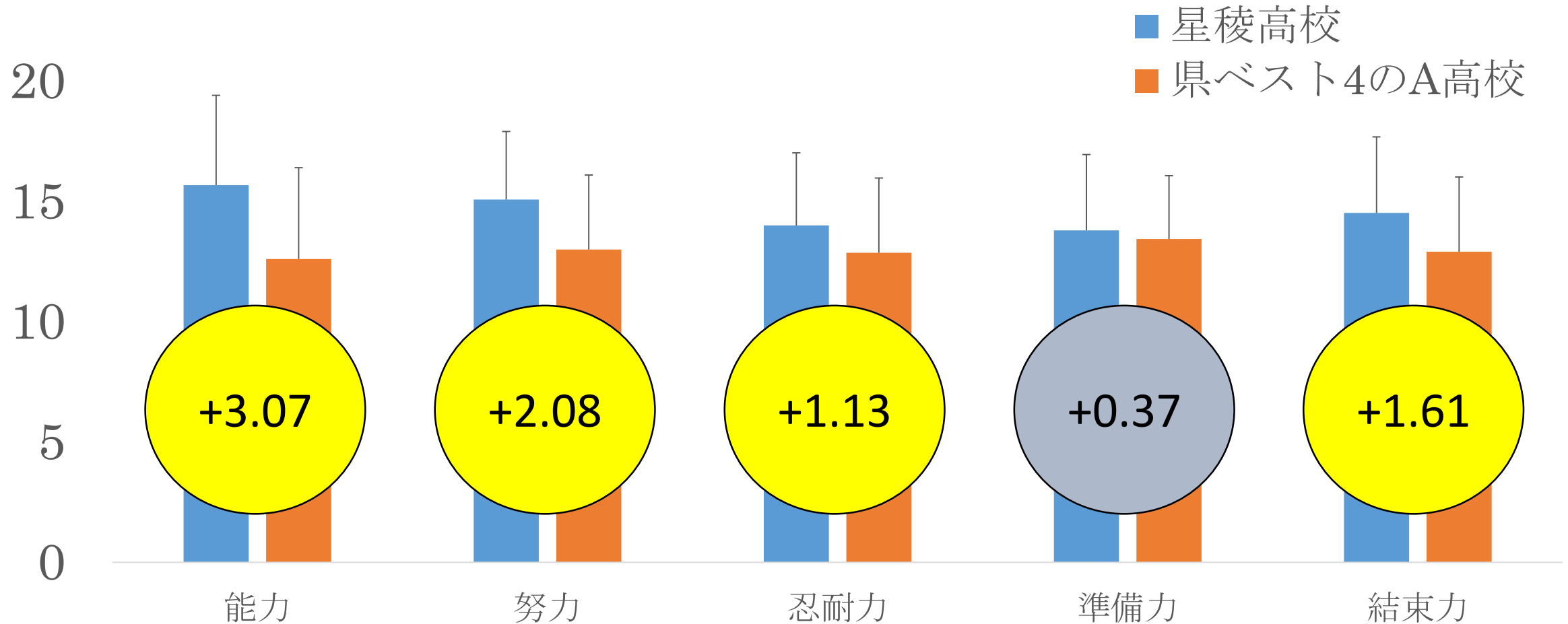
練習後に集団調査形式で実施

質問項目の概要

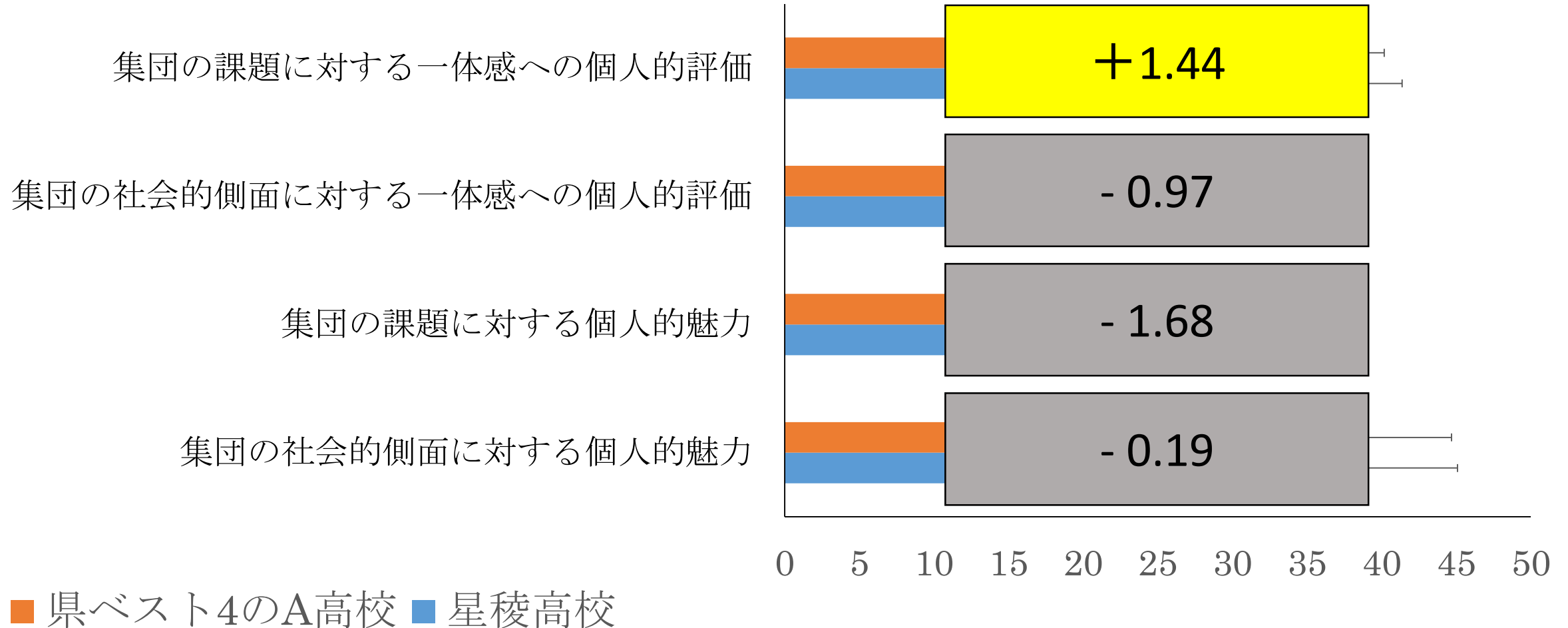
- ア. **集団環境質問票 (GEQ) の翻訳版尺度** (内田ほか、2014)
20項目、5つの下位尺度
- イ. **日本語版スポーツ集合効力感尺度** (内田ほか、2014)
18項目、4つの下位尺度
- ウ. **組織風土尺度** (樋口、1996)
20項目、3つの下位尺度

2-3. 結果

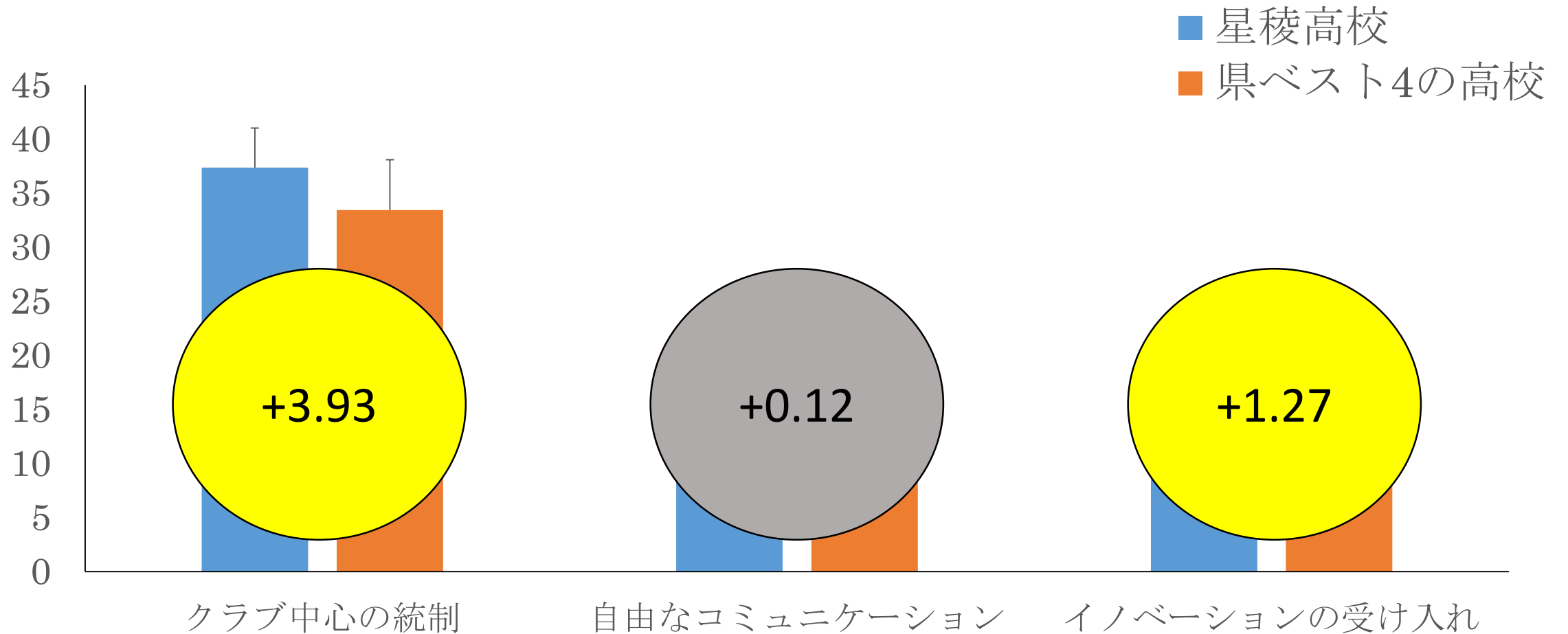
2校の集合的効力感の差異



2校の集団凝集性の差異



2校の組織風土の差異



2-4. 考察

集合的効力感



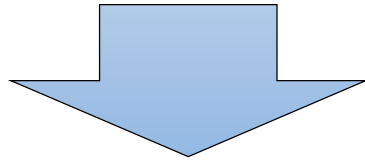
→パフォーマンス向上に
関連している

集団凝集性

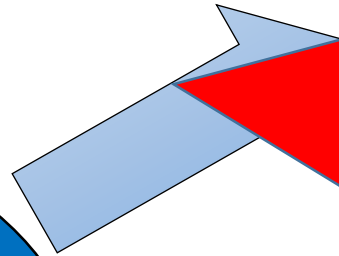


→パフォーマンス向上に
関連していない

組織風土



星稜高校



高得点



組織風土の観点から調査すると……

- ・チームの規範を重んじ、チームに愛着があること
- ・新しいことを取り入れることに寛容であること

2-5. 結論

成績とパフォーマンスを向上させるためには……

集合的効力感を高める必要がある



**クラブ中心の統制、イノベーションの受け入れを
高める必要がある！！**

3. 政策提言

キーワード

クラブ中心の統制

イノベーションの受け入れ

クラブ中心の統制

個人的なことや他のことよりも
チームを優先する雰囲気がある



チーム愛が大きい
コミュニケーションが取れている



イノベーションの受け入れ

新しいものを生み出し、
受け入れる雰囲気がある



**日常から創造力が働いている
何かを思いつく能力がある**



会話

重要

る時間



学生寮



提言テーマ

休み時間で創造する

事前準備

- ・同じ学年で作成

グループ
作成

テーマ
作成

- ・例: 戦略、集客
考え方 など

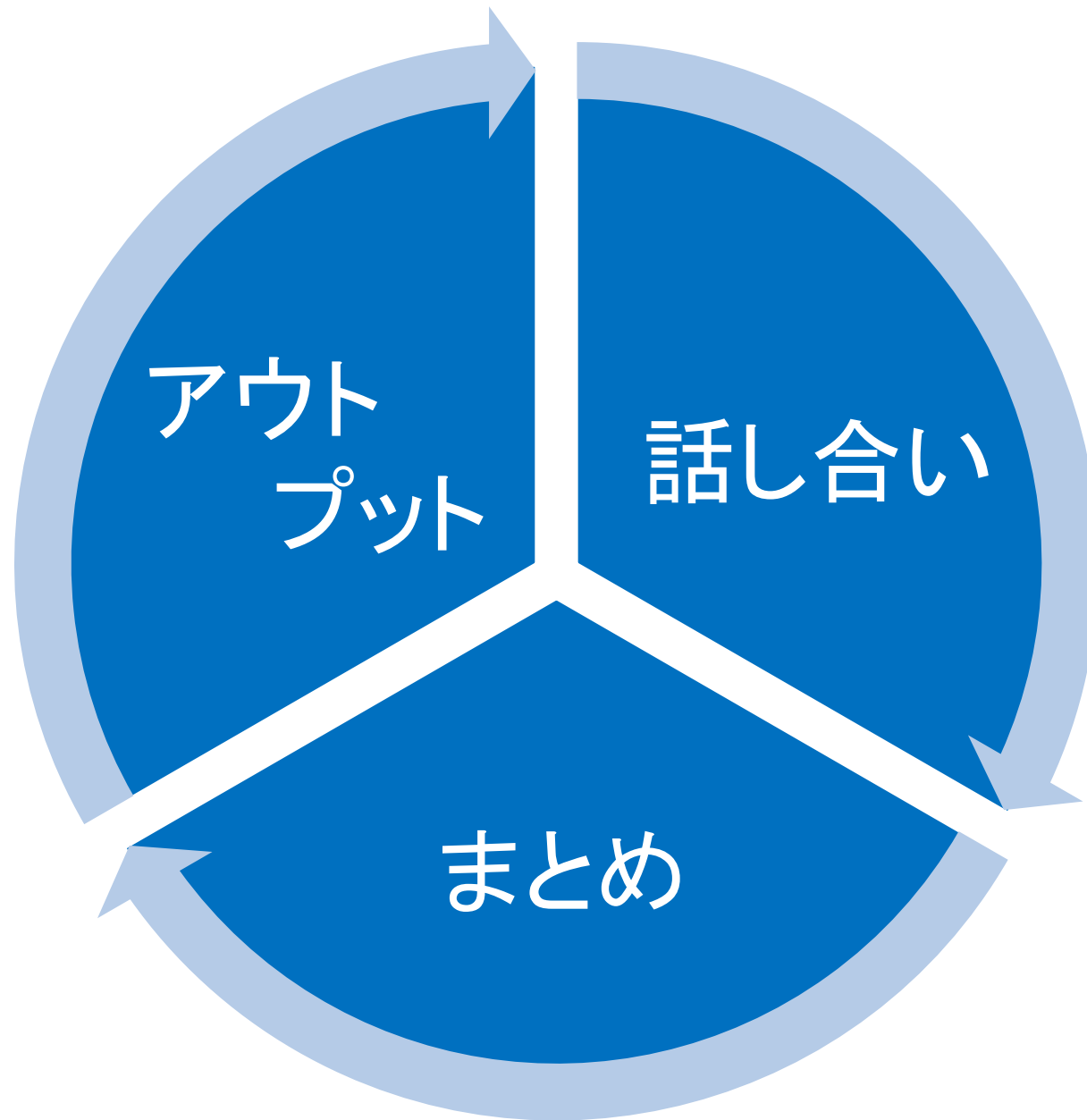
情報
共有

時間

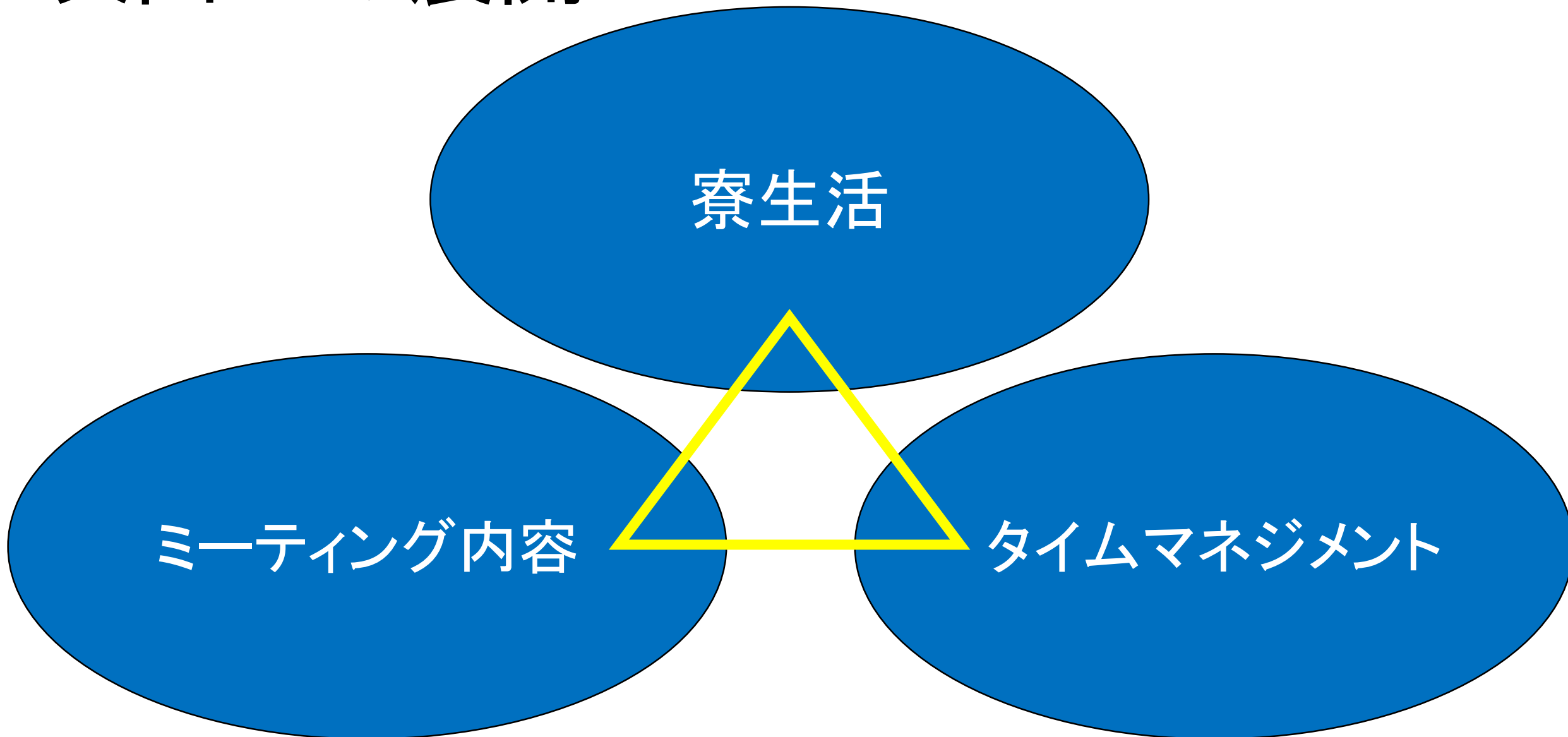
- ・部員全員で共有

- ・休み時間(1日約70分)
- ・タイムマネジメント

実行



次回への展開



引用文献・参考文献

樋口 康彦(1996).

スポーツ集団における組織要因とメンバーの達成動機との関連について 関西大学

檜塚 正一・五藤 佳奈・伊達 萬里子・田嶋 恭江(2008)

集団凝集性と心理的競技能力の関連性について—大学女子ハンドボール選手の場合—

内田 遼介・土屋 裕睦・菅生 貴之(2011).

スポーツ集団を対象とした集合的効力感研究の現状と今後の展望:パフォーマンスとの関連性ならびに分析方法に着目して

内田 遼介・町田 萌・土屋 裕睦・釘原 直樹(2014)

スポーツ集合的効力感尺度の改訂・邦訳と構成概念妥当性の検討

- Gully, S.M., Incalcaterra, K.A., Joshi, A., and Beaubian,,J.M. (2002)
- A meta-analysis of team-efficacy,potency and performance: Interdependence and level of analysis as moderators of observed relationships. J.Appl. Psychol., 87: 819-832.